



サービス事業者 スマート農機活用45%

ドローン最多 用途広く費用安 農水省調査

農業散布や施肥、収穫作業などを請け負う「農業支援サービス」を提供する事業者のうち、スマート農機を活用している割合が45%に上ることが、農水省の調べで分かりました。活用しているスマート農機は「ドローン」が最多でした。農業の人手不足が深刻化する中、サービスを担う人員の確保や、産地や市町村をまたいだサービス提供が進むかも課題になっています。

調査は昨年11月、農業支援サービスで収入を得ている事業者を対象に初めて実施。3510の事業者から回答を得ました。

支援サービスで提供しているスマート農機(複数回答)は、「ドローン」が23.9%で1位。「自動走行または直線アシスト機能

付き田植え機」(17.2%)、「無人ヘリコプター」(11.8%)と続きました。スマート農機以外も含めた農機全体で見ると、1位はトラクター(55.4%)でした。

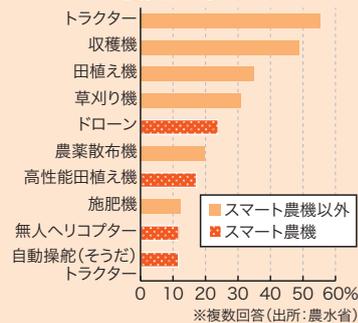
ドローンは、事業者が今後サービス提供したいスマート農機でも1位でした。同省は、「導入コスト

が比較的安い上、用途も幅広くサービス面積を広げやすい」(技術普及課)ことから活用が広がっているとみています。

スマート農機を活用したい理由(同)は、「人手不足の解消」が最多の69.1%に上りました。サービスを利用する農家だけでなく、サービス事業者も人手不足に悩む実態が浮き彫りになりました。

スマート農機以外も含めた支援サービス全体の提供範囲は「市町村」が68.9%で最多。同省は、サービスの利点を生かす

農業支援サービスで提供しているスマート農機の1位はドローン



ため「複数産地でサービスを提供するなど、広い範囲で展開する事業者を増やしていきたい」(同)としています。

(日本農業新聞 2025年7月18日)

農業技術ピックアップ

果実肥大盛期のLED群落内補光は トマト地上部乾物重量を増加させる

施設園芸において、温室内の光環境を改善する技術としてLED補光装置を用いた群落内補光があります。しかし、エネ

ギー効率の良い補光方法はまだ確立されていません。そこで、果実発達に寄与する照射方法を最適化するため、果実の肥大ス

テージを基準に、LED補光装置の照射位置を変更し、群落内側の葉における光合成機能と地上部乾物重に及ぼす影響について検討しました。

試験区は、補光装置の照射位置を、初期位置(地上85cm)の「固定」に加え、1段から4段までの各花房の開花から最初の果実の直

径が10mmに達するまでの「肥大初期」、果実の直径が10mmから30mmまでの「肥大盛期」、果実の直径が30mm以上の「肥大後期」の各果房上10cmの位置で照射位置を変化させました。

その結果、果実乾物重及び収量は、無処理に比べすべての補光処理区で増加しました。また、肥大盛期の補光処理が最も高い果実乾物重及び収量を達成し、総乾物重の増加も最大となりました(表1)。

【表1】補光照射位置の違いが収量性に及ぼす影響

| 処理区 | 乾物重 g/株 | | | 合計 | 乾物分配率 % | | | 収量 g/株 | 収穫果数 | 1果重 g/果実 |
|------|----------------------|--------|---------|---------|---------|--------|---------|----------|--------|----------|
| | 果実 | 茎 | 葉 | | 果実 | 茎 | 葉 | | | |
| 無処理 | 119.6 a ² | 37.0 a | 59.1 a | 215.7 a | 55.5 a | 17.1 a | 27.4 c | 2296.7 a | 19.3 a | 119.0 a |
| 固定 | 143.2 b | 44.0 b | 67.6 bc | 254.8 b | 56.2 ab | 17.2 a | 26.5 bc | 2690.3 b | 18.8 a | 143.1 b |
| 肥大初期 | 147.5 b | 42.5 b | 64.3 b | 254.3 b | 58.0 c | 16.7 a | 25.3 a | 2714.7 b | 19.7 a | 137.8 b |
| 肥大盛期 | 156.5 c | 45.0 b | 69.9 cd | 271.4 c | 57.6 bc | 16.6 a | 25.8 ab | 2868.0 c | 20.0 a | 143.4 b |
| 肥大後期 | 147.8 b | 44.4 b | 70.9 d | 263.1 b | 56.2 ab | 16.9 a | 26.9 c | 2735.9 b | 19.5 a | 140.3 b |

※異符号間は、Tukey-Kramer検定(n=3)により有意差あり(P < 0.05)

お問い合わせ先

生産技術研究室 野菜園芸研究課
☎0598-42-6358

▼このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介します。

農業を営む すべての方に

農業経営資金

農業経営に必要な資金として幅広くご利用いただけます

トラクター・ドローンなどの農業機械購入

栽培用ハウス建設

畜舎建設

農地購入

農業運転資金

その他農業経営に必要な資金

JAバンク 利子補給制度で **金利負担を軽減**します

1%

年

当初3年間 最大利子補給

【取扱期間】
2025年4月1日 ~ 2026年3月31日

詳しくはお近くのJA/バンクまでお問い合わせください
<https://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>

JAバンク三重 農業資金 検索

JAバンク 三重県下JA/JA三重信連